

大塚駐ジブチ大使と当協会会長の面談

8月2日（火）、大塚海夫駐ジブチ共和国特命全権大使が当協会を訪問され、池田会長、友田副会長、森重理事長と面談を行いました。

池田会長からは、船舶の交通の要衝である、ソマリア沖・アデン湾の船舶航行が自衛隊・海上保安庁の隊員による海賊対処行動によって守られていることから、日本大使館を通した両国間の良好な関係構築が海賊対処行動に欠かすことのできない大きな役割を果たしていると、感謝の意を表しました。

また友田副会長からは本年5月の同拠点開設10周年記念式典参加の機会をとらえたジブチ政府関係機関との面談支援についてお礼を申し述べました。

大塚大使からは、ジブチという国は日本における認知度が低く、海運業界や政府関係者に認識されている程度ではあるが、同国は若者の占める割合が高く、アフリカへのゲートウェイとして可能性の高い国であることや、日本がこれまで実施した海上保安体制の強化を含む、数々の支援策が好感されていると紹介されました。

また、現在はソマリア沖・アデン湾の海賊事案が減少しているが、それは各国による警備・警護活動の成果であり、海賊が撲滅された訳ではないことを踏まえ、日本国として海賊対処活動の継続等のためにも、老朽化した拠点設備の改善が急がれるほか、活動拠点としてのジブチへの支援継続が必要であるとしてわが国がジブチ共和国に対して現地事情に即した地道な支援を行っている事例として海上警備力の強化を担う沿岸警備隊の創設・拡充をあげ、警備艇の無償供与、運営に関わるキャパシテイビルディングを合わせた支援を行っている事や国内主要港を結ぶフェリーの代替船の無償供与、教育設備の拡充にも助力していることも紹介されました。

会長より、2023年の早い時期にジブチを訪問し、現地で海賊対処関係者の皆さまに感謝の意を直接伝えたい意向が示したところ、大使からも是非、来訪をお待ちしたいと歓迎の意が示されました。



（左から）森重理事長、池田会長、大塚駐ジブチ大使、友田副会長